



2026年(令和8年)7月1日午後2時

府政記者会 会員各位
関西空港記者会 会員各位
水産経済新聞 みなと新聞 各位

みなさまの食卓に届くことを期待して
トラフグの稚魚を大阪湾に放流します

国や府県が連携した取組で漁獲量の回復をめざします

環農水研水産技術センターでは、大阪湾の魚介類資源を増やすため、魚介類の子供を育てて、放流する「栽培漁業」を大阪府・公益財団法人大阪府漁業振興基金とともに推進しています。このたび、漁業振興基金が育成したトラフグが放流に適した大きさに成長しましたので下記のとおり大阪湾に放流します。また、今回は第45回全国豊かな海づくり大会「魚庭(なにわ)の海おおさか大会」記念リレー放流^{※1}の一環として行います。

トラフグは昭和40年頃までは大阪府沿岸でも天然の個体が多く漁獲されていましたが、現在は年間で100キログラム程度と少なくなっており、瀬戸内海全域でも減少傾向にあります。そのため、国や瀬戸内海沿岸の府県が連携してトラフグを増やす取組が行われ、その一環として各地で稚魚が放流されています。大阪府でも平成27年度からトラフグの稚魚を育成して大阪湾に放流しており、今年で12年目になります。

水産技術センターは放流の技術的サポートを行っており、トラフグの稚魚に大阪府から放流したことが分かるように頭の中にある耳石という硬組織を染色して目印をつけ、関係各県と連携して移動経路や成長を調査しています。初夏に放流したトラフグ稚魚は、翌年の1月頃には全長25センチメートル、体重300グラム程度まで成長して大阪湾で漁獲され始めます。これまでの調査では放流から1年半後に全長40センチメートル、体重1,392グラムに成長した個体も確認されました。また、大阪府から放流した個体が、瀬戸内海の西部海域でも漁獲されていることが確認されています。



放流を待つトラフグの稚魚
全長70ミリメートル、体重8グラム程度



トラフグの飼育水槽

大阪産(もん)トラフグが府民のみなさまの食卓に届くことを期待し、さらに調査をすすめていきます。

記

放流種:トラフグ

放流日時:2026年7月6日(月曜日) 午後3時00分から

2026年7月7日(火曜日) 午前11時00分から

2026年7月8日(水曜日) 午前11時00分から

放流場所:海とのふれあい広場(大和川河口域)

放流尾数:各回とも5千~1万尾程度

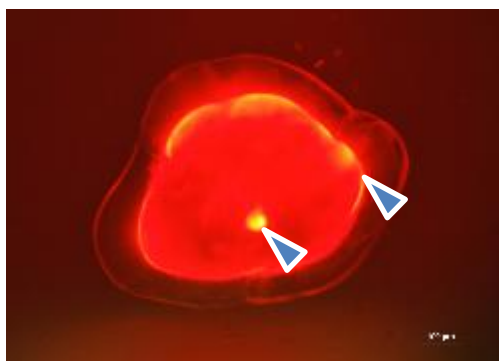
(注)取材を希望される方は、事前に環農水研水産研究部水産支援グループ(担当 山中)までご連絡ください。作業の進行状況や当日の天候により日程を変更する可能性があります。放流準備作業や放流場所などの詳細事項が確定し次第、ご連絡差し上げます。



トラフグ放流イメージ
(ホースを使ってトラフグを放流)



漁獲された放流トラフグ(2024年3月漁獲)
(全長40センチメートル、1,392グラム、
2022年7月放流由来)



放流するトラフグの耳石につけられた目印

※1 2026年11月15日(日曜日)に開催する第45回全国豊かな海づくり大会「魚庭(なにわ)の海おおさか大会」の機運を醸成するとともに、「つくり育てる漁業」の推進を図るため、府内各地でリレー形式にて稚魚の放流を実施しています。